

優しい巨人



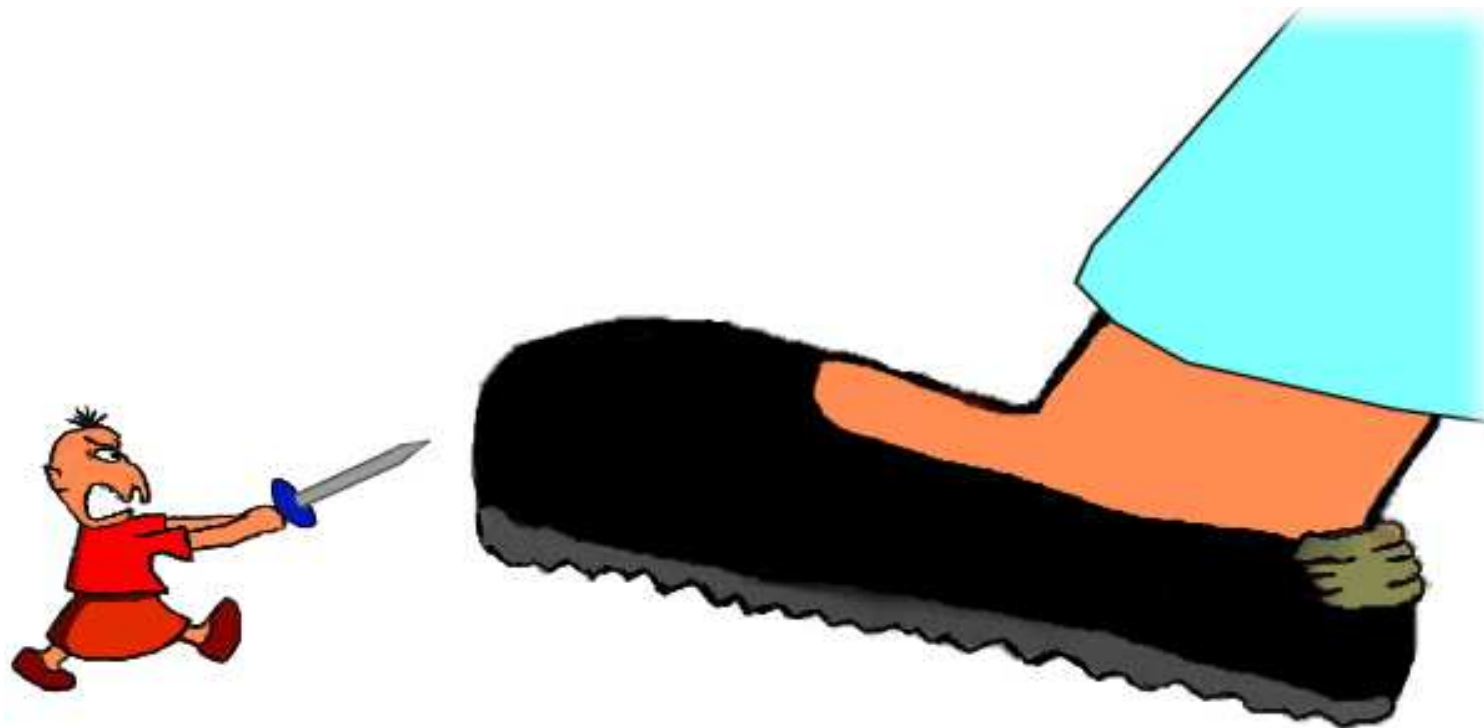
東郷 潤

ひろ～い宇宙の、ある星に、と
っても大きくて、強い巨人がい
ました。

怖そうに見えるけど、本当はす
っごく優しいんです。人々をと
ても愛しているので、自分の力
を生かして、世界中の人々を守
りたいと思っています。

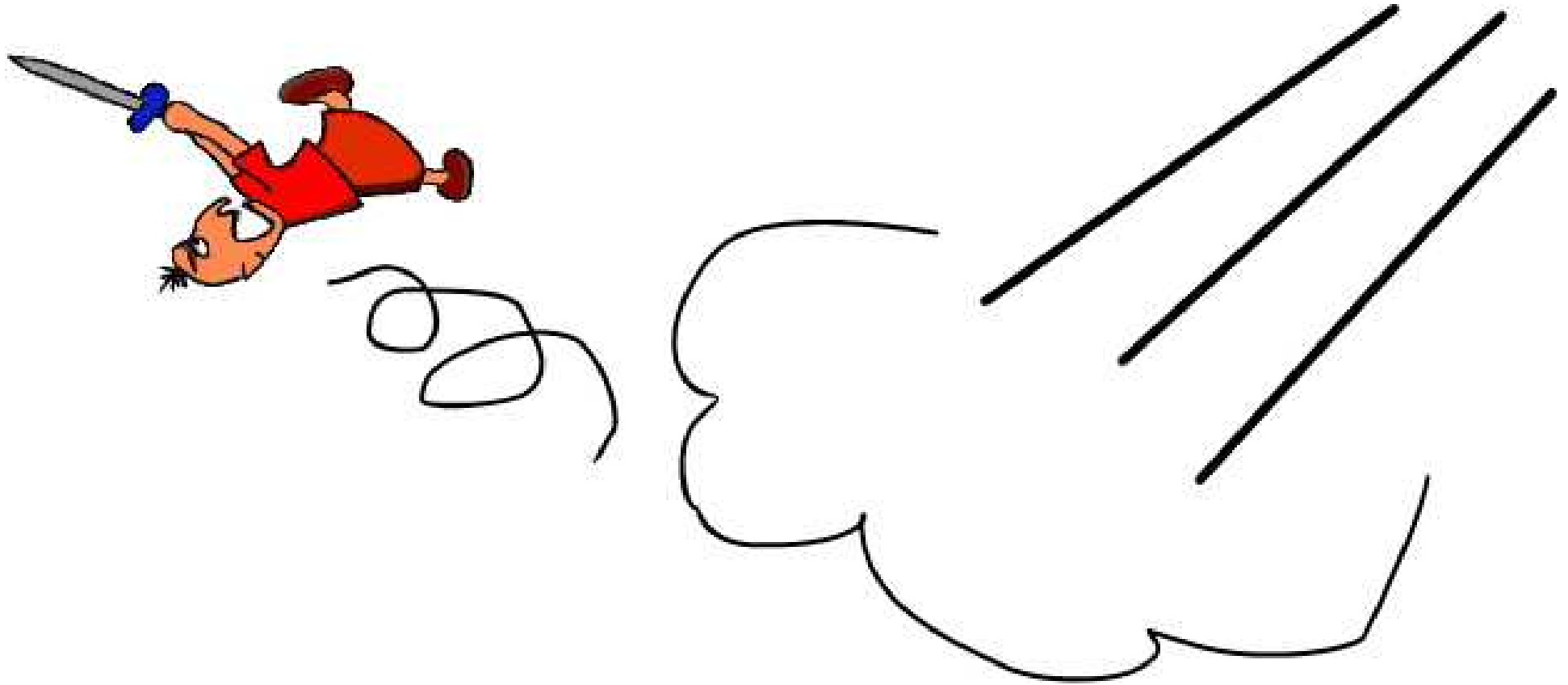


ある日、巨人さんが歩いていると、足がなにやらちくちくします。一みると、悪魔のような顔の小さな人がいました。



彼が針のように小さい刀で足をつついていたので。

「こいつ、悪人だな！」巨人さんは、台風のような息をその人に吹き付けました。—赤い服の小さな人はどこかへ吹き飛ばされました。



「よっしゃ、世界のために、悪い奴を一人やっつけた。これで世界は安心だ！」巨人さんは、ニッコリ！



再び、巨人さんが歩いていると、また足が痛くなりました。一みると、悪魔のような顔の小さな人々が数人います。巨人さんに石をぶつけているのです。



「こいつらも、悪人だな」

怒った巨人さんは、空から、コブシを人々の真ん中にたたきつけました。



「よっしゃ、これで悪い奴らをやっつけた。これで世界はもっと安全な場所になる！」
巨人さんは、再び世界を守れて大満足！
巨人さんは、ニッコリしましたが、顔には汗をかいています。



巨人さんがさらに歩いていくと、今度は、体のあちこちが痛くなりました。

まあ、大変！ 悪魔のような顔をした人々が、そこらじゅう数え切れないほど大勢います。

火がついた槍で、巨人さんを狙っていたり、刀で巨人さんをさしたり、石を投げたり、飛行機で体当たりしようとしているのです。



巨人さんは、もうカンカン！

「この悪人どもめ！ 全部まとめて、やっつけてやる！！ 世界の平和と安全のために！！」



—そのとき、赤い服の人が、空からドスンと落ちてきました。



あれ？ 最初に、巨人さんに息で吹き飛ばされた人です。

「あの巨人をやっつけるぞ！」

赤い服の人が、巨人さんに向かって駆け出そうとしています。



こちらを振り向いた顔は、意外に優しい顔でした。

「どうしてあなたは、巨人さんを攻撃するの？」

「え？ …君はあの巨人のことを知らないのかい？ …それはね、あいつが俺の娘を、踏み殺したからなんだよ」



…な、なんと巨人さんは大きすぎて、歩くときに、車や家や子どもたちを踏みつぶしても、気づかなかったみたいなんです。



むろん、ワザとしたものではありません。人々が自分よりずうっと小さいので、見えなかっただけ。…でも、いくら見えなかったからといっても、これじゃあ、人々が怒るのは当たり前ですね！

あ、大変！！ 巨人さんは、子どもや家を踏みつぶされて怒っている人々を、悪人だと勘違いしちゃっています。



このままでは、大勢の人々が殺されちゃいます！！ 巨人さんに、みんなで精一杯叫んで、教えてあげなきゃ！！

お~~~~い、優しい巨人さ~~~~ん！



**怒っている人は、
悪人じゃあ、
ないんですよ！**

あとがき

善悪という言葉／考え方には、多くの錯覚を生じさせる傾向があります。そして、それらの錯覚は何千年もの間、様々な悲劇を生み、幾億もの人々を犠牲として来ました。(詳細は、弊著「善悪中毒」リベルタ出版をご参照ください)。

そうした悲劇を地球上から無くすことを目的に、善悪を巡る錯覚の一つをテーマとして、本絵本を執筆しました。もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、商業出版を除いて自由にコピーして下さって結構です(商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます)。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2005